

平成 26(2014)年 3 月 28 日(金)- 30 日(日) 開催
第 36 回美術科教育学会 奈良大会へのお誘い 最終案内

テーマ：美術教育における<言葉・コミュニケーション>

—アートと言葉、言語活動の充実、鑑賞と表現、遊びと学び、共通事項—

32 年ぶりの奈良の地での開催、ようこそ“学会発祥の地”へ 100 件を超える発表・企画(一般発表、研究部会発表、シンポジウム、プラチナ・トーク<特別招待発表>)でおもてなし

美術科教育学会(代表理事 和歌山大学教授 ^{ながもりもと}永守基樹)は、美術教育に関する実践検証や研究を進めている全国規模の学会で、日本学術会議協力学術研究団体にも登録され、大学美術教育学会、日本美術教育学会とは、連携協力に関する協議会「造形芸術教育協議会」を結成(2010.2)しています。この度、“学会発祥の地”奈良での開催となる第36回美術科教育学会奈良大会の最終案内ができましたのでお知らせいたします。美術教育に関心のある方は、どなたでも(学会員以外の方も大歓迎)御自由に参加ください。参加費は「非会員料金」になります。なお最新の情報は、美術科教育学会Webサイト(<http://www.artedu.jp/>)にて確認下さい。

■主催：美術科教育学会

■後援：奈良県教育委員会

■会期：2014年3月28日(金)、29日(土)、30日(日)

■会場：奈良教育大学(〒630-8528 奈良市高畑町)

■大会テーマ：美術教育における<言葉・コミュニケーション>

—アートと言葉、言語活動の充実、鑑賞と表現、遊びと学び、共通事項—

御陰様で、3日間で90件の一般発表の申し込みをいただきました。年度末のお忙しい時期に、日頃の研究・実践成果をもって奈良に集っていただく会員の皆様にまず御礼申し上げます。一般発表は、学会の生命線であり、地道な個々の研究の積み上げこそ、斯界が次のステージに進むパワーとなると考えています。それぞれ、存分にご発表下さい。

大会テーマは、学習指導要領における「各教科等における言語活動の充実」や美術やアートの活動がもつ独自の言葉・コミュニケーションについて考える機会にしたいと思い、設定致しました。また、昨年12月21日に開催した記念プレ学会にて熱く議論をした「美術教育における遊びと学び、共通事項」なども絡めていきたいと考えています。

このテーマの下、佐藤 学氏(学習院大学教授／東京大学名誉教授)、西井恵美子氏(和歌山市立雄湊小学校教諭)、西澤 明氏(金沢大学属中学校教諭)をシンポジストとして、藤江 充氏(愛知教育大学名誉教授／学会元代表理事)を指定討論者として、



2014.12.21 約 90 名の参加者で討議したプレ学会

それぞれお迎えし、29日にシンポジウムを企画致しました。小中における教育実践発表を軸に佐藤氏の提言を交え、多角的な討論を展開していく予定です。コーディネーターは、本学の竹内晋平が務めます。

さらに、プラチナ・トーク＜特別招待発表＞として、一般発表とは別な枠組みで、本学会に長年、携わってこられた4氏から貴重なメッセージをいただきます。創設メンバーである那賀貞彦氏(大阪教育大学名誉教授 28日午後)には、本学会への激励も含めた「美術教育の戦略」を、同じく初回からのメンバーの東山明氏(神戸大学名誉教授 29日午後)には、長年の研究の一端である「子どもの絵の表現の発達の道筋」を、それぞれ発表いただきます。また、元代表理事の宮脇理氏(Independent Scholar/元・筑波大学教授 29日午前)には、「芸術(美術・工芸)教育は人口に膾炙されているか」と題し、斯界に対するメッセージを、同じく代表理事経験者の花篤實氏(大阪教育大学名誉教授 30日午前)には、草創期の本学会運営のご苦労や大学院創設の頃の試行錯誤について、それぞれ伺います。ご期待下さい。

研究部会発表(28日と30日)では、7つの部会全てと現在設立準備中の部会のあわせて8つの発表があります。一般発表で追究しきれない萌芽的・横断的なテーマについての発表と討議をお楽しみ下さい。

このように100件を超える発表・企画でおもてなしをさせていただきます。日頃の慌ただしい生活を離れ、非日常的な時空間の中で、美術と教育の日頃の活動について思い切り語り合っていただければ幸いです。

(宇田 秀士)

■日程

大会第1日 3月28日(金)

学会誌編集委員会(学会誌編集委員会委員) 10:30～12:30

受付 12:10-12:50

研究部会交流会 13:00～14:30 [授業研究部会, 現代＜A/E＞部会, アートセラピー研究部会, 高校美術研究部会]

研究発表Ⅰ(プラチナ・トーク含む) 14:40～17:30

理事会(理事・監事) 17:50～19:50

大会第2日 3月29日(土)

開会式・総会(大講義室) 9:00～10:10

研究発表Ⅱ(プラチナ・トーク含む) 10:25～12:05

昼休み(大学食堂営業)

研究発表Ⅲ 13:00～14:40

シンポジウム「美術科教育におけるコミュニケーション、ことば、言語活動」(大学講堂) 15:00～17:40

懇親会(大学内学生会館：山田ホール) 18:00-20:30

大会第3日 3月30日(日)

研究発表Ⅳ(プラチナ・トーク含む) 9:00～11:15

研究部会交流会 11:25～12:55 [美術教育史研究部会, 工作・工芸領域部会, 乳・幼児研究部会, アート&ケア(仮称)部会設立準備会]

■3月29日開催のシンポジウムについて

「美術科教育におけるコミュニケーション、ことば、言語活動」

平成20(2008)年3月の学習指導要領改訂告示に先だち、中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」が示されました(平成20年1月)。この答申においては、本シンポジウムのテーマである「コミュニケーション」と「ことば」に関連して、「各教科等における言語活動の充実は、今回の学習指導要領の改訂において各教科等を貫く重要な改善の視点である」と述べられています。豊かな「言語活動」によって思考力・判断力・表現力の伸長を図り、「生きる力」という理念にアプローチしようとする学習指導要領のもとで、図画工作・美術科学習においても現在、多くの学校現場で実践が進められています。

その一方で、美術科教育ではこれまでから「コミュニケーション」と「ことば」を視覚的・身体的な問題として扱ってきた経緯があります。また、「言語活動」を含めた「コミュニケーション」と「ことば」は本来、美術科教育の学習活動を成り立たせるための重要な要素であるとも言えるのではないのでしょうか。このように「コミュニ

ケーション'と'ことば'を広義に、そして不可欠なものとしてとらえてきた美術科教育の特性を再検討し、言語活動との関連性について考察していく必要があると考えられます。

本シンポジウムでは、学習指導要領に位置付けられている「言語活動」を念頭におきながらも、美術科教育における「コミュニケーション'と'ことば'の意義について、幅広い協議を進めていきたいと考えています。

(竹内 晋平)

シンポジスト：佐藤 学氏(学習院大学教授)

三重大学助教授、東京大学大学院教育学研究科教授などを経て現職。東京大学名誉教授。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。教育学博士。著書に『米国カリキュラム改造史研究』(東京大学出版会、1990年)、『教育改革をデザインする』(岩波書店、1990年)、『教師というアポリア』(世織書房、1997年)、『子どもたちの想像力を育むアート教育の思想と実践』(東京大学出版会、2003年)、『教師花伝書』(小学館、2009年)など。

シンポジスト：西井 恵美子氏(和歌山市立雄湊小学校教諭)

和歌山大学附属小学校などを経て現職。京都教育大学卒業。日本教育美術連盟研究会、美術科教育学会等で造形遊びに関して発表。「芒・蒲を描く-身体感覚を研ぎ澄ませいきいきとした線を生む-」(『美術教育実践研究』No.1、和歌山大学美術教育研究会、2012年)、「線のぼうけん-線の魅力と可能性を感じる-」(『形』No.299、日本文教出版、2013年)など。

シンポジスト：西澤 明氏(金沢大学附属中学校教諭)

金沢市内公立中学校教諭を経て現職。金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科、金沢大学大学院教育学研究科修了。金沢美術工芸大学非常勤講師。金沢21世紀美術館「ミュージアムエデュケーション21」、美術科教育学会<フォーラムin京都>等で美術館との連携活動に関して発表。金沢大学附属中学校の「言語活動」に着目した校内研究を研究主任として統括(2010-2011年)。

指定討論者：藤江 充(愛知教育大学名誉教授/美術科教育学会元代表理事)

三重大学助教授、愛知教育大学教授などを経て、愛知教育大学名誉教授。美術科教育学会元代表理事。東京藝術大学大学院美術研究科修了。中央教育審議会・芸術専門部会の専門委員などを歴任。論文に「美術教育のための「能力」観の研究」(『美術教育学』第28号、2007)、「『思考力・判断力・表現力』と美術教育」(『教育美術』連載、2011~12)など。著書に「子どもの絵の謎を解く」(明治図書、2013)など。

コーディネーター/司会：竹内 晋平(奈良教育大学准教授)

京都教育大学附属京都小学校教諭などを経て現職。論文に「『小学図画』論争と日本画的図画教育-京都府師範学校附属小学校刊行論文の考察を中心に」(『美術教育学』第31号、2010年)、「造形活動における児童の感受を通じた芸術発信」(『大学美術教育学会誌』第44号、2012年)など。

■参加申し込み方法【事前のお申込みが大変お得です】

参加申し込み及び参加費の払い込みは、本学会通信第84号発送時(2013.10)に同封させていただいた払込取扱票に必要事項をご記入の上、お振り込みください。参加費の振り込みによって学会参加申し込み手続きとさせていただきます。口座番号、加入者は以下の通りです。

郵便振込

口座番号記号：00950-5-234123 加入者名：第36回美術科教育学会奈良大会

(1)学会参加費：

- ①事前申込み料金 正会員：4,500円、大学院生(現職等の社会人をのぞく、正会員を含む。以下同様)：2,500円、大学院生以外の非会員：5,500円
- ②当日申込み料金 正会員：5,000円、大学院生：3,000円、大学院生以外の非会員：6,000円

(2)懇親会費：

- ①事前申込み料金3,500円(大学院生は、2,500円)
- ②当日申込み料金4,000円(大学院生は、3,000円)

(3)参加申し込み最終期限と参加費・懇親会費の払い込み最終期限：2014年2月28日(金)

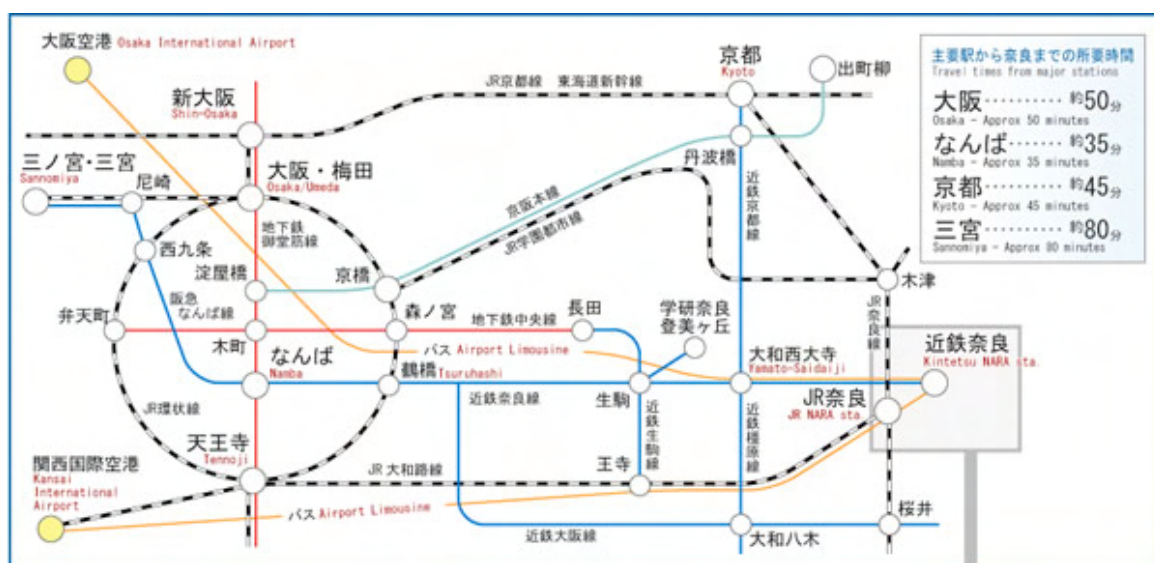
- * 参加費払い込み用の払込取扱票を紛失された方及び「非会員」参加者の方は、郵便局にある払込取扱票をお使いください。その際は、必ず払込取扱票の通信欄に「参加費4,500円」「懇親会費3,500円」などを明記してください。
- * 通信欄に、ご住所、ご所属(大学院生の場合は、「院生」と明記をお願いします)、お名前、電話番号等をご記入ください。
- * 当日受付も可能ですが、大会運営上できるだけ事前申込みをお願いします。なお、参加申し込み最終期限の2月28日(金)以降は口座に振り込まず、当日受付(当日申込み料金、上記参照)にてお支払いください。

■奈良教育大学までの移動手段

◆主要駅からＪＲ奈良駅・近鉄奈良駅までの所要時間

大阪から約50分(ＪＲ線、近鉄線)、なんばから約35分(近鉄線)、京都から約45分(ＪＲ線、近鉄線)、三宮から約80分(ＪＲ線、阪神・近鉄線)。

奈良教育大までのアクセス



◆JR奈良駅から奈良教育大学まで

○奈良交通バス：2系統市内循環線(外回り)、56系統山村町行、57系統藤原台行などに乗車、高畑町(たかばたけちょう)で下車(約15分)、バス停から徒歩1分。

○タクシー：所要時間約15分。

◆近鉄奈良駅から奈良教育大学まで

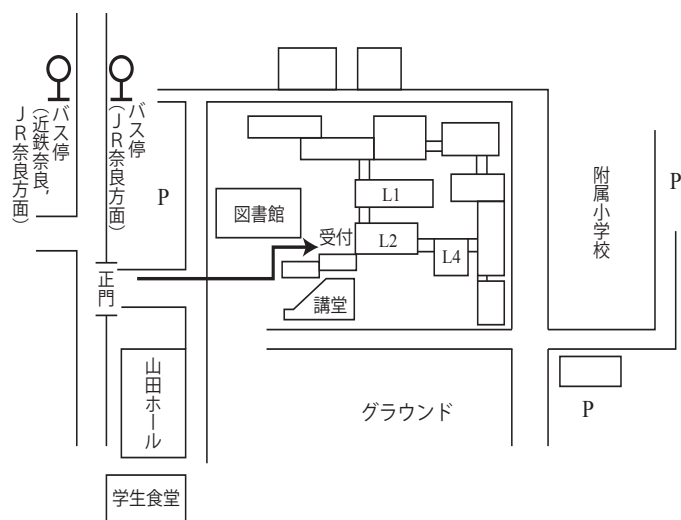
○奈良交通バス：2系統市内循環線(外回り)、6系統中循環線(外回り)、56系統山村町行、57系統藤原台行などに乗車、高畑町(たかばたけちょう)で下車(約10分)、バス停から徒歩1分。

○タクシー：所要時間約10分。

◆バス停から学会「受付」まで

正門を入ると正面に大学「講堂」が見えます。「講堂」を正面にして左手に進んで下さい。進んだ先のL1(講義棟)、L2(講義棟)の入り口付近が大会受付場所となります。

奈良教育大学キャンパス案内図



奈良教育大学「講堂」

■宿泊先

各自で手配をお願いします。

■託児について

第36回 美術科教育学会 奈良大会では、託児の対応をしておりません。ご了承のほどお願いします。

問い合わせ先：大会運営事務局 〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学 美術科教育研究室内
比留間 良介(大会名誉実行委員長)
宇田 秀士(大会実行委員長) TEL/FAX 0742-27-9223(研究室直通) E-mail udah@nara-edu.ac.jp
竹内 晋平(大会実行副委員長) TEL/FAX 0742-27-9038(研究室直通) E-mail shimpei@nara-edu.ac.jp

■大会詳細日程・時程 別紙参照